

北米国立医学図書館に所蔵する日本古医書

(善本類を中心に)

町 泉寿郎

二松学舎大学

2008年9月3～5日の3日間、ワシントンDCからほど近いメリーランド州ベセスダにある国立医学図書館(以下、NLMと略称)に所蔵される日本古医書の調査を行った。所蔵する日本古医書の総点数は1,700点に上るとされ、北米最大級の日本医書の所蔵機関と目される。既に同館のHPで蔵書検索は可能であるが、いまだその全ては掲載されていない。また個々の文献に関する調査報告は不十分である。今回は、善本類を中心に報告する。

I 写本

A: 名家旧蔵本・名家自筆本等

- ① 山田業広自筆稿本: 『経方辯』(天保9年の旧稿に明治12年72歳のときに加筆したもの)、『金匱要略攷異』, 他に青山道醇写『椿庭随筆』。
- ② 多紀元堅自筆写本: 多紀元簡『櫟窓類抄』巻14下(浅田宗伯が明治10年に多紀晴之助から贈られた)。
- ③ 小嶋宝素自筆写本: 『屠蘇攷』。他に旧蔵書に『屠蘇考』(写)・『医略抄』(刊)・『難経経釈』(刊)・曾占春『本草綱目纂疏』(刊)。同館DBで、『類経』『類経図翼』に見られる「小嶋」印の使用者を小嶋宝素と同定するが誤り。
- ④ 浅田宗伯書入本: 多紀元堅『雑病広要』巻三十四～四十。他に旧蔵書に杉本栲園『栲園随筆』(写)等。

B: 古写本・希覯本

- ① 竹田昌慶『延寿類要』(室町末頃写)。
- ② 目黒道琢『医事百問』: 他に伝本なく、目黒道琢の著書としても従来未聞である。
- ③ 曲直瀬道三『雖知苦齋鍼灸集要』(江戸前期頃写): 国内では京大富士川と杏雨書屋に所蔵されるが、前者は良質な写本とは言えず、NLM本は道三の筆跡を伝えた写本である。
- ④ 『万安方』: 同館DBでは元奥書によって享禄2年(1530)の古写本とするが、所見では江戸中期の写本。
- ⑤ 山脇東洋『養寿院医談』(松田雪柯写): 国内では杏雨書屋の1本のみ。
- ⑥ 『秘家医方捷徑』: 曲直瀬正珪撰とするが、序跋によれば山脇養寿院家の処方集。京大富士川に1本。
- ⑦ 中川修亭『金匱要略秘説』: 他に伝本なく、中川修亭の著書(講義録)としても従来未聞。
- ⑧ 『補仁社実験録』: 明治初期漢方医たちが各人の治験を提出し、それに浅田宗伯が手を入れた治験録の草稿。漢方存続運動の一環として作られたものと推定される。他に伝本なし。
- ⑨ 『御側御田御薬効能録』: 徳川将軍家の奥医師が使用した薬の効能書き。他に杏雨書屋の2本のみ。

II 刊本

- ① 『解体新書』: NLMに三部あるが、いずれも同版。刊記の須原屋の住所に「室町二丁目」と「室町三丁目」あり(版木の「三」の一画目が欠損したため)。「室町三丁目」が早印と見える。NLMに所蔵する「室町三丁目」版は、表紙の補配など後修はあるが、厚手の用紙に印刷面が美しく、版刻が成った初期に作られた特装本と考えられる。
- ② 江戸前期刊: 元和版『勿聴子俗解八十一難経』、『医学源流』(山中共古旧蔵)。寛永版『名医略伝』『医略正誤』。未詳『延寿撮要』。
- ③ 木活字本: 鈴木良知『医海蠡測』, 医方類聚採輯本『五臓論』, 『遊相医話』, 『傷寒吐則』。

(備考) 木村博昭旧蔵書のなかに散見される蔵書印「画餅居士蔵書記」の使用者を、DBでは江戸後期・京都の漢詩人中島棕隠と同定しているが、明治期の漢方医で、中島と同じく「画餅居士」と号した太田正隆の使用印の誤りである。

※本発表は、文科省科研費助成・基盤研究(B)「米国立医学図書館等の所蔵の日本古医書の調査・目録・データベースの作成」(研究代表者: 酒井シヅ, 課題番号19406017)による研究成果の一部である。